〔教令類纂初集十六〕延寶六戊午年二月十九日

今朝土井能登守殿被仰渡候者、麻疹病人只今迄三番湯掛候迄者、登城遠慮仕候得共、向後御役は相勤、御成之節は、助を立相勤、御目見無用ニ可仕之由被仰渡候、以上、

〔麻疹流行記〕元祿四年辛未三月ゟ、夏ニ至リ、諸國ニ麻疹流行せし時、人民不養生をなし、又食毒にあたりて愁ひを見る事、其數を知らず、

靈元院法皇樣、勅詔に依て、名古屋玄醫翁、養生書を撰、普く日本國中に流布なして、諸人をすくふ、其書予が先祖に傳り有に依而、此度彫刻して、再び天下に披露せしむるものなり、

元祿四辛未年是より七年目十　寶永四丁亥年是より四ケ年目二十　享保十五庚戌年是より四年目廿

寶曆二癸酉年是より四年目十　安永五丙申年是より八年目廿　享和三癸亥年

六拾餘州津々浦々ニ至迄、麻疹流行する事、前代未聞之事也、

京なはて　叶屋喜太郎板

〔牛山活套下〕補遺

寶永戊子年〇五ノ秋ヨリ冬ニ至リ、明ル己丑ノ歳ノ春マデ、日本六十餘州ヲシナメテ麻疹流行シテ、男女老少ヲ不問、一般ノ疫麻也、貴トナク賤トナク、此患ニテ死スル者多シ、予牛山〇香月京師ノ高倉ノ旅館ニアツテ、此病ヲ治スルコト五百三十餘人也、其内一人モ死スル者ナシ、皆之ヲ治スルノ醫、或ハ寒凉ヲ過シ、或ハ辛熱ヲ用ヒ、或ハ補藥ヲ用テ其害夥シ、予一方ヲ製ス、葛根連翹湯ト名ヅク、葛根、連翹、升麻、白芍藥、酒、芪、胡酒、黃芩、當歸、桔梗、山查、蘇梗、山梔子、各等分、甘草減半、水煎シ服ス、紅點出ガタキ者ニハ、防風、牛房子ヲ加ヘ、泄痢アル者ニハ、扁豆、砂仁、木通、車前子ヲ加ヘ、咳嗽甚キ者ニハ、桔梗、甘草ヲ倍シ、前胡、桑白皮ヲ加フ、熱甚キニハ、酒黃、栢酒、黃連少許ヲ加ヘ、或ハ淡竹葉ヲ加ヘ、口甚渴スル者ニハ、麥門冬、石羔ヲ加ヘ、血乾テ大便秘スルニハ、川芎、生地黃、紅花、大黃少許ヲ